

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	大阪大学
整理番号	A09
構想名	GLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本構想は、「世界適塾」として、大学院教育の抜本的改革と異分野の統合、優秀なグローバル人材確保と教育実施体制の世界標準化、横断的組織体制の確立、教育研究の戦略的な国際展開により、大学全体としての教育・研究力強化を図るものであり、学長のイニシアティブの下、平成30年度に「国際共創大学院」の設置を決定するなど、意欲的な取組が着実かつ多面的に進められている。</p> <p>学際融合教育として、外国語学部の学生が他の人文社会科学系学部の教育課程を履修する学部横断的な副専攻型プログラム「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」を開始したことは、外国語学部を有する大阪大学の特色を活かした先駆的な取組であると評価出来る。</p> <p>人事システムに関しては、全外国人教員等の採用に際して国際公募を義務化するとともに、外国人雇用支援事業の実施やクロス・アポイントメント制度の適用を進め、外国人教員等の比率の向上に繋げている。</p> <p>国際化関連については、受入外国人留学生数が数値目標を達成しており、外国語のみで卒業出来るコースの設置数も大学院では36コースまで増加するなど、順調な伸びが認められる。また、外国語による授業科目数が目標値を超えて大幅に増加している点は、他大学にも大いに参考になるものと評価出来る。入試改革に関しても、入学定員の約10%を目途に、多様な才能を持つ学生の受入れを目的とするA0・推薦入試を実施し、その一環としてTOEFLや国際バカロレア等の外部試験を指標として活用するなど、構想に沿った取組を着実に実施している。</p> <p>教育情報の徹底した公表については、英語、中国語、韓国語版の大学公式ウェブサイトを作成し、平成29年度までに97件の研究成果を海外メディアや大学・研究機関等に向けて英語で発信する等の積極的な取組を進めているほか、大学の優れた研究を紹介する冊子「Osaka University Research Profile 2017」の発行や、英文広報誌「PROSPECTUS」の増刷等の多言語による情報発信を強化している点は評価に値する。</p> <p>一方で、テニユアトラック制の導入については限定的であり、数値目標未達となっている。また、日本人学生に占める留学経験者の割合は、学部では数値目標に達しているものの、大学院では数値目標を下回っており、今後改善策を講じる必要がある。加えて、女性教員の数は徐々に増加してはいるものの数値目標には達していないことから、より柔軟な検討と対策の実施を期待する。</p>	